

# 組合員の意見を積極的に取り入れた事業運営

愛知北農協(愛知県)

## 取組の概要

- 組合長がリーダーシップを発揮し、幅広く青年部等の農業者の声を取り入れた取組を実施。

## 取組のポイント

### 1 組合長のリーダーシップ

組合長がリーダーシップを発揮し地元向け販売の強化を実施。また、青年部の総会には、組合長が出席し、懇親会まで参加。広く、若者の意見を聞き実現可能なものは農協の取組に取り入れている。

### 2 農業者の意見の積極的な取り入れ

日頃の連絡や打ち合わせなど、日常の関わりの中で出てくる意見の中で、次につながると考えられる意見については、前向きに検討を行っている。

実際に意見が取り入れられる事例があることで、より農業者からの意見が出やすい環境が作られており、新たな取組につながっている。

## 取組の実績

### 1 名古屋の百貨店内地下の青果店において青年部の農産物を販売

青年部から、野菜の販売を強化したいという意向と百貨店内地下の青果店が地元の農産物の販売を強化しようと考えているという情報をJAの青年部事務局職員が受け、農協が主体となり、市場担当者と青年部、職員による話し合いを実施。青年部のロゴマークをつけた農産物を百貨店内地下の青果店で取り扱うことになった。

青年部が設立して間もない時期で、農協内で若者を応援していこうという機運が高まっており、スムーズに話がまとまった。

これにより、約300万円の新規の販路を確立。農協が仲介することで、商談をスムーズに進めることができ、また、精算をJAが担うことで効率的な取引になっている。

青年部の農産物の  
ロゴマーク



### 2 産直センターにおける有機農産物コーナーの設置

組合長が青年部の総会の意見交換の中で、有機農産物の生産者から、名古屋のマルシェなどで直接販売しているが、輸送費や人手がかかるなど、販売に苦労しているという話を聞き、販売担当職員に指示。

産直センターの顧客のニーズ調査などから、職員が産直センター扶桑店に有機農産物の販売コーナーを設置することを提案し、実現。若い農業者の所得を上げていこうという農協の方針もあり、実現につながった。

有機農産物を生産する農業者の販売の機会が広がるとともに、どの農産物が有機栽培であるかわかりやすくなり、有機農産物を求める消費者も買いやすくなった。

### 3 農業塾の有機農業部門の開講

平成18年度から農業塾としてJAが主体で新たに農業を始めたい人を対象に農作業の研修を実施している。

青年部の総会に出席していた組合長が意見交換の中で、有機栽培についても農業塾を開講できないかという提案を受け、JAの担当者に相談。

職員がニーズなど、実現可能性について調査を行い、平成29年度より開講されることとなった。